



気仙沼 NN 通信



「気仙沼 NN 通信」は、気仙沼地方振興事務所農業農村整備部の広報広聴活動の一環として、主に気仙沼管内の農業農村整備事業に関連する活動を広くお知らせするものです。掲載内容についてお問い合わせなどありましたら、お気軽に当部（農村振興班）まで御連絡ください。

【落合地区のあたらしいまちづくり懇談会を開催しました】



当部では、現在、気仙沼市落合地区で農山漁村集落体制づくり支援事業（※）を進めています。当地区は上前木・下前木・上廿一・下廿一集落の4集落から構成されています。令和2年度より各自治会長を中心に、今後の地域づくりの進め方について話し合いを行ってきました。

令和2年10月24日（土）には、気仙沼市旧落合小学校にて、住民主体の地域づくりを事例から学び、落合地区の課題や将来について考えることを目的とした「落合地区のあたらしいまちづくり懇談会」が開催され、地元住民24名が参加しました。

本会は2部構成で行われ、15時の部では、丸森町筆甫地区の筆甫地区振興連絡協議会より、「援農ボランティア受入事例」について、19時の部では加美町旭地区の旭地区をさらによくするプロジェクトより、「廃校利活用検討事例」についてご紹介いただきました。質疑応答の時間では講師に対し、SNSの活用方法や人の集め方といった具体的な質問がなされ、積極的に地域づくりについて学ぶ姿が見られました。

事後アンケートでは、参加者から「世代を超えた仲間づくりの参考にしたい」、「若い人が増え、活力ある地区にしたい」といった地域づくりへの前向きな意見をいただきました。



15時の部の様子（R2.10.24）



19時の部の様子（R2.10.24）

※農山漁村集落体制づくり支援事業

→宮城県が高齢化や人口減少が著しい農山漁村地域における集落の活性化を図ることを目的に、地域の課題等の実態把握や集落が行う活動の実施体制づくりを支援する事業。

【気仙沼管内の農家さんをご紹介します！】

当管内では、平成24年度より気仙沼地区と南三陸地区の2地区（10工区）において東日本大震災で被災した農地の復旧と併せてほ場整備（区画整理）を進めています。現在は30a～50aの農地が誕生し、順調に営農活動が行われています。今回は、工区内で営農活動を行っている方々を紹介します。

【シーサイドファーム波路上株式会社】

気仙沼地区杉ノ下工区内の約55aの面積で施設いちご栽培に取り組んでいる農業法人です。元々、いちご栽培を行っていた代表取締役の佐藤信行氏は、被災後にいちご栽培の再開を目的に「被災地域農業復興総合支援事業」を活用し、大型ハウスを設置しました。またコンピュータ等のICTを活用し、温度や湿度、二酸化炭素濃度等をいちご栽培に適した環境を調整する自動環境制御装置を導入しました。

現在は、「とちおとめ」、「もういっこ」、「にこにこベリー」の3種類の栽培を社員4名とアルバイト14名で行っています。佐藤氏は、若者も雇用し、地元のいちご農家に栽培方法等を教わる研修を実施する等、若手農家の育成にも取り組んでいます。

佐藤氏に今後の抱負についてお聞きしたところ、「より品質の良いイチゴをつくり、収量の確保を目指していきたい」とのことでした。



今年度収穫したいちご（R3.2撮影）



代表取締役：佐藤信行氏



今年度収穫した南三陸ネギ（R2.10撮影）



代表取締役：渡部恵氏（右）

【株式会社グリーンファーマーズ・宮城】

南三陸地区泊浜工区・田表工区を中心に南三陸ネギの栽培に取り組んでいる農業法人です。

南三陸町で東日本大震災の復興支援をしていた一般社団法人「O.G.A. FOR AID」の農業支援プロジェクト《GFA》が独立してできた法人で、地元雇用促進や地域産業の発展等を目的に活動しています。

令和3年度は7.3ha(ほ場整備地区外を含む)の農地で、作付けが行われる予定です。

代表の渡部恵氏に今後の抱負についてお聞きしたところ、「ネギの作付け面積を10haまで拡大したい。ネギ以外にも、地域のブランドに貢献できる作物にも取り組んでいきたい」とのことでした。

【南三陸クローバーウニ検証プロジェクトの取組みについて】

当事務所では、管内の耕作放棄地の有効活用とウニによる磯焼け対策を目的に令和2年4月に宮城大学と連携し、「南三陸クローバーウニ検証プロジェクト」を立ち上げました。

磯焼けとは海洋生物の食害等が原因で藻場が減少・消失する現象を指します。南三陸町志津川湾においても、ウニによる磯焼け被害が問題視されており、対策としてウニを駆除する必要があります。

駆除したウニの活用方法として検討が行われているのがクローバーを餌としたウニの陸上養殖技術です。クローバーの活用は、通常の餌（ワカメ等）と比較してウニの色つきが良いことから新しい地域ブランド化も期待されています。

現在は農家の方々と連携し、地元で発生する小松菜やキャベツ等の残渣を用いた給餌試験も実施しています。



クローバーを食べるウニ



キャベツを食べるウニ



小松菜生産農家：星達哉氏

南三陸地区西戸川工区・在郷工区で小松菜を生産している星達哉氏は、生産過程で生じる小松菜残渣の提供にご協力いただいています。

また在郷工区で緑肥を兼ねて約1haのクローバーを栽培しています。令和2年10月に播種したクローバーは令和3年春頃に収穫できる予定です。

星氏に本プロジェクトについてお聞きしたところ、「里と海の循環に繋がるおもしろい取組みだと思った。今後も農家や民間企業、行政が一体となって取り組んでいきたい。」とのことでした。

宮城県気仙沼地方振興事務所農業農村整備部（編集：農村振興班）

〒988-0181 宮城県気仙沼市赤岩杉ノ沢47-6

TEL：0226-25-8075

FAX：0226-22-1608

HPのURL：<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ks-tihouken-m/>

